

おおとものやかもち
大伴家持

新あらたしき 年としの始はじめの 初はつ春はるの

今き日よ降うる雪ふの いや重しけ吉よ事し

(意味)新しい年が始まる初春の今日、真っ白な雪が外には降り積もっている。この降り積もる雪のように良い事が重なるように。

この歌は、奈良時代の歌人で万葉集の編者である大伴家持によって詠まれた歌で、万葉集の最後はこの歌でしめくられています。

当時、新年に降る雪は縁起がよいとされていました。このことから、縁起のよい雪と同じように、良い事がずっと続いていくようにという願いが込められているように感じます。